「令和2年7月豪雨」人吉別院で物故者三回忌追悼法要

熊本教区が県仏教会と共催

「令和2年7月豪雨」物故者三回忌追悼法要が7月3日、人吉別院（熊本県人吉市）で営まれた。熊本教区と熊本県仏教会との共催。遺族5人を含む40人が参拝した。新型コロナに対応し、オンライン配信も行った。

令和2年7月3日から集中豪雨が発生し、特に球磨川流域を中心に熊本県で死者67人（災害関連死2人含む）、行方不明者2人など、多くの尊い人命が失われ、建物・橋梁の破壊や流失、浸水による甚大な被害を受けた。2年経った今も、山間の道路や川には災害の爪痕が残り、人吉市中心部はさら地が目立つなど、復旧工事が続いている。

法要は、大辻子順紀教務所長の挨拶後、野村宗雄輪番の導師で阿弥陀経作法をおつとめ。参拝者が焼香した（写真）。

豪雨直後から被災者支援を続ける藤岡教顕さん（熊本県湯前町・明導寺住職）が法話し、「町中で『がんばろう人吉球磨』のメッセージを目にする。このメッセージで励まされる方もいるが、頑張り続けてこれ以上頑張れない人にとっては、わかってもらえないつらさが増幅している。そのような中で、全国からいただいた手紙の中に綴られていた『困難なことがありますが〝大丈夫、まかせなさい〟という阿弥陀さまのおはたらきを、共にいただきましょう』の文字に私は救われた。復興への道を歩めます」と話した。

参拝した國本五月さん(47)は、この豪雨で夫の両親を亡くした。國本さんは報道各社の取材を断り、別院職員を通じて「いろんなことが思い出されて、話せない」と、苦しい胸の内を伝えた。

4市村に義援金届ける

球磨地域17寺で組織の有志の会

令和2年7月豪雨で大きな被害を受けた熊本県球磨地域にある本派寺院17カ寺で組織する「被災者支援を行う有志の会」（恒松見照代表＝相良村・聚教寺住職）は6月28日と7月1日、被災した人吉市、球磨村、相良村、山江村に義援金を届けた。また、災害で亡くなった門徒の遺族にも「香典」を届けた。

同会は豪雨直後から1年間、SNSなどで支援を呼びかけ、全国から支援物資や義援金（救済金）が寄せられていた。しかし、新型コロナの流行で支援活動が困難であることから、人吉別院での物故者三回忌追悼法要を契機に義援金を届けることとした。

義援金を受け取った山江村の内山慶治村長は「義援金をいただき、大変ありがたい。私も浄土真宗の門徒。皆さまの優しさを胸に、み仏のあたたかなお慈悲にかなう生きざまを大切にしていきたい」と話した。